

2. 火山の概況 (平成 15 年 2 月 27 日 ～ 平成 15 年 3 月 5 日)

三宅島では引き続き火山ガスの放出量が多い状態であった。八丈島では地震が一時的にやや多くなった。阿蘇山では孤立型微動の多い状態が継続した。桜島、諏訪之瀬島では噴火があった。口永良部島では地震がやや多い状態となっている。

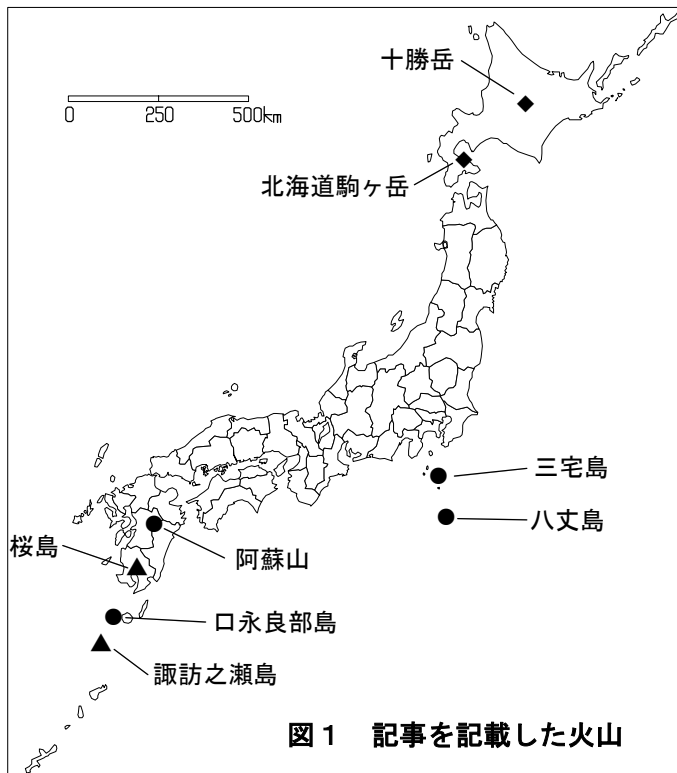


図 1 記事を記載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	摩周	十勝岳	北海道駒ヶ岳	岩手山	浅間山	三宅島	八丈島	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
10	2/27- 3/ 5		◆	◆			●	●	●		▲		●	▲
9	2/20- 2/26		●	●			●	●	●			◆		●
8	2/13- 2/19	●	◆			●	●	●	●		●	▲		●
7	2/ 6- 2/12	●	●			▲	●	●	●		▲			●
6	1/30- 2/ 5						●	●	●					▲
5	1/23- 1/29				●		●	●	●					▲

注 1 記号の意味

▲：噴火した火山

●：観測データ等に変化があった火山

◆：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ等を示す。

◆ 十勝岳

前期間の 25 日に微動が発生したが、今期間は微動の発生はなかった。

地震活動は低調で、1 日当たり 0～2 回であった。

噴煙活動も定常レベルで経過した。

◆ 北海道駒ヶ岳

ごく微小な地震が前期間に一時的に増加したが、今期間は少ない状態で経過した。

噴煙活動や地殻変動に目立った変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙・熱・火山ガス]

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 600m (27 日) であった (前期間 500m)。

震度 1 以上を観測した火山性地震、振幅のやや大きな低周波地震の発生はなく、総じて地震活動は低調であった。

4 日に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測*では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から南東へ流れていた。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内の最高温度は 255℃であった (前回 (19 日) 150℃以上**)。

また、同時に気象庁が行った火山ガス観測*では、二酸化硫黄の放出量は日量約 3,600～6,800 トンと長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった (以上図 2)。

GPS 観測では、収縮の傾向にあった三宅島の地殻変動は収縮率が小さくなり、静穏期にもみられるわずかな膨張に転じている。

* 東京消防庁の協力による

** 参考値 (噴煙が主火口を覆っており、最高温度が測定できなかったため)

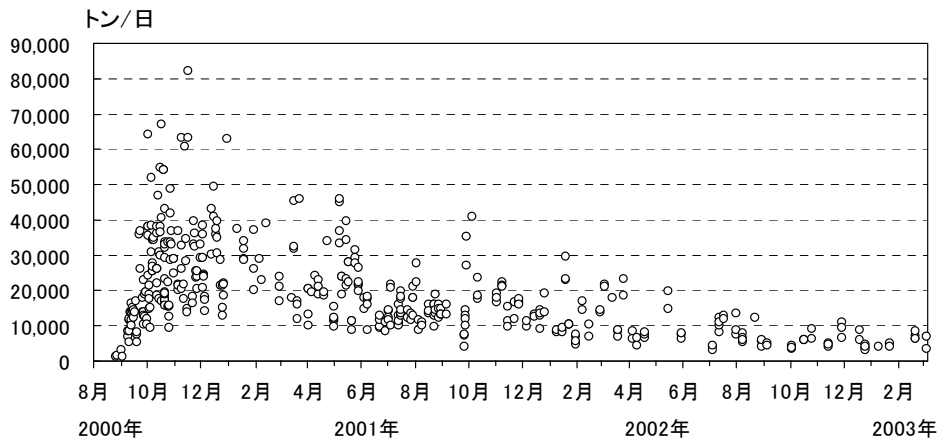


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量（2000年8月～2003年3月）

● 八丈島 [地震]

3月3日04時台に、高周波地震7回、低周波地震11回がまとまって発生した。震源は八丈島西山（八丈富士）周辺、深さ10km前後であった。それ以外には地震の発生はなく、落ち着いた状態が続いた。

● 阿蘇山 [微動]

孤立型微動の多い状態が続いているが、今期間の発生回数は、1日当たり48～81回、合計は489回（前期間799回）と、減少傾向がみられる（図3）。

地震回数は少ない状態が続き、1日当たり1～5回で、合計は22回であった（前期間29回）。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上600m（27、28日）であった（前期間500m）。

中岳第一火口内は、依然全面湯だまり状態、湯だまりの色は緑色で、特に異常な変化はなかった。

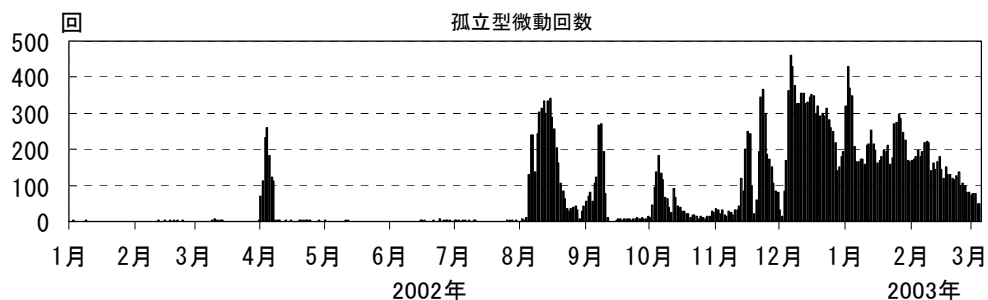


図3 阿蘇山 孤立型微動日別回数（2002年1月1日～2003年3月5日）

▲ 桜島 [噴煙・降灰]

期間中、1回の噴火があった（前期間はなし）。

噴煙高度の最高は、火口縁上1,000m（5日）であった（前期間400m）。

鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では、降灰日数は計1日、降灰量はごく微量であった（前期間はなし）。

● 口永良部島 [地震]

地震活動がやや活発な状態で推移している。2月の地震回数は160回で、昨年の月平均40回と比較して多い状態となっている。

上屋久町役場口永良部島出張所によると、新岳の噴気活動等に変化は認められていない。

● 諏訪之瀬島 [微動・空振]

期間中、爆発*が4回発生した（前期間はなし）。

火山活動の活発化を示す微動の発生状況は、連続微動が前期間の2月25日03時から発生し、3月

* 噴火の一形式で爆発的噴火の略

5 日 24 時現在継続中である。

地震回数は少ない状態が続き、1 日当たり 2～11 回、合計は 45 回であった（前期間 44 回）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約 4 km）では、27 日夜にかすかに 襖 ^{ふすま} が揺れる程度の空振があった。降灰は確認されなかった。

表 2 火山情報発表状況

火 山 名	火 山 情 報 名	発表日時	概 要
三 宅 島	火山観測情報第 111 号 ↓（1 日 2 回発表） 火山観測情報第 124 号	27 日 09:30 ↓ 5 日 16:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）
口永良部島	火山観測情報第 1 号	28 日 11:35	地震の増加、噴気活動に変化なし

「火山の概況」に関する解説

「火山の概況」では、噴火や定常状態から変化があった火山及び火山活動に関連する表面現象があった火山について、陸上火山については、各気象官署が収集した情報により、海底火山については、海上保安庁及び海上自衛隊の観測報告に基づき、その概況を記述する。また、時刻は日本標準時を使用する。

「火山の概況」で用いる用語は次のとおりである。

- 噴火：** 火口から火山灰等の固形物や溶岩を火口付近の外へ放出する現象。但し、噴火活動が活発な桜島では、火山灰を含む噴煙の高さが火口縁上概ね 1,000m以上となった場合に噴火としている。
- 爆発：** 噴火の一形式で爆発的噴火の略。地下の高温、高圧源での内圧が増大して起こり、音響とともにガス、水蒸気、岩石等を放出し、空振を伴う現象。時に火口や山体を破壊することもある。
- 火山性地震：** 火山体または火山付近を震源とする地震。「火山の概況」本文中の地震とは、主に火山性地震をさす。
- 火山性微動：** マグマや熱水の移動等に関連して発生する地面の連続した震動。
- 日回数：** 現象の1日の回数。例：火山性地震の日回数は20回
- モホ面：** 地殻とマントルの境界の不連続面。発見者の名前にちなんで名付けられたモホロビッチ不連続面の略。
- 鳴動：** 火口またはその付近に音源を持つ連続的な音響で、特に火山活動に関連して起こるもの。時には震動を伴うものもある。
- 空振：** 噴火などにより火口から物質が放出される際に発生した衝撃波などが、空気中を伝わり観測される音波。爆発的な噴火では大きな空振が観測される。人間が聞こえない低周波の音波まで観測できる「空振計」と呼ばれる測器で観測する。
- 階級と解説**
- 大：** 窓ガラスなどが激しく振動し、時には破損することもある程度
 - 中：** だれにでも感じる程度
 - 小：** 注意深くしていると感じる程度
- 噴石：** 噴火の際に噴出される溶岩または火山体を構成する岩石の破片。
- 降灰：** 火山灰、火山砂、火山礫が降下する現象。
- 火山雷：** 火山噴火の際、噴煙中またはその周辺で発生する雷。
- 火映：** 火口内の火山ガスが燃焼した場合や、赤熱溶岩が噴出した場合に、これらが噴煙や雲に映って明るく見える現象。高感度カメラにより初めて捉えられる程度の弱い現象については、「微弱な火映現象」と表現して、従来の肉眼で捉えられる火映と区別している。
- 火炎：** 火口から出る可燃性ガスが燃える現象。
- 火山昇華物：** 火山の噴気孔の周囲に、噴気中の成分が固化し付着したもの。黄色や白色のものなどがある。
- 火柱：** 噴火の際、火山噴出物が赤熱状態で噴出されることにより、特に夜間、火口上に火の柱が立ったように見える現象。
- 火砕流：** 高温の岩片と気体が、主に重力によって駆動され、一団となって高速に地表を流下する現象。
- 溶岩ドーム：** 粘性の高い溶岩が噴出したため、遠くに流れることができずドーム状の丘となったもの。